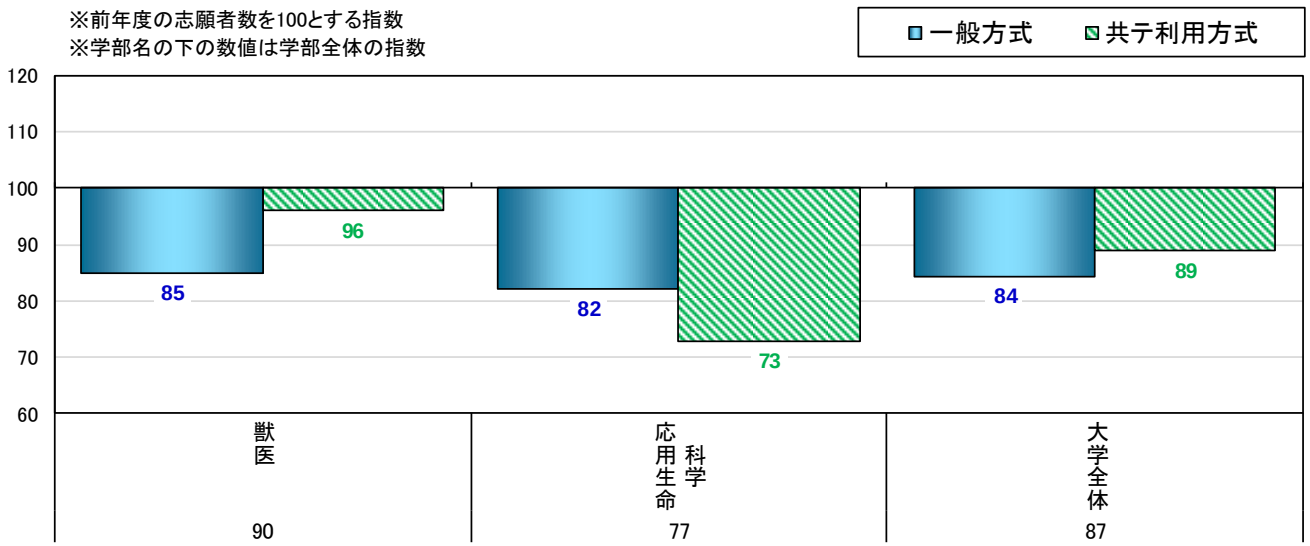
2021 年度入試状況分析【私立大】

日本獣医生命科学大：大学全体では２年連続減少　　一般：−290 人　共テ：−193 人



入試変更点	選抜方法：獣医(獣医)…〈共テ・第１回５科目〉→〈共テ・第１回５科目〉、〈共テ・第１回３科目〉　※３科目を新設 入試科目：全学部〈共テ〉〈共テ併用〉…英(筆記)→英(リーディング)+英(リスニング)　※英(リスニング)追加 獣医(獣医)〈共テ・第１回５科目〉…共テ：理(化 or 生→１)→理(物 or 化 or 生→１)　※物の選択追加 応用生命科学〈共テ併用〉…共テ：数Ⅰ・A+数Ⅱ・B→(数Ⅰ・A or 数Ⅱ・B)→１　※１科目選択に 募集人員：獣医(獣医保健看護)…〈一般・第３回〉６人→５人 〈共テ・第１回〉８人→７人、〈共テ併用・第２回〉８人→７人 応用生命科学(食品科学)…〈一般・第１回〉35→21 人、〈一般・第３回〉８人→５人 〈共テ・第１回〉６人→５人、〈共テ併用・第２回〉10 人→５人 (動物科学)…〈一般・第１回〉46→40 人、〈一般・第３回〉８人→６人 〈共テ・第２回〉３人→２人、〈共テ併用・第２回〉８人→７人

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、483 人(87)の減少で２年連続減少だが、獣医(獣医)を除く２学部３学科で募集人員が減少したことで、大学全体の志願倍率は 13.7 倍→14.0 倍へアップ。学部別では、２学部いずれも減少で、応用生命科学(77)は２年連続大幅減少、獣医(90)は２年連続減少。方式別では、一般方式(84)が大幅減少、共通テスト利用方式(89)は減少で、いずれも２年連続減少。

〈一般方式〉

○**獣医(85)**は、大幅減少で２年連続減少。学科別では、(獣医保健看護)(103)はやや増加、2018 年度以降の志願者数は 320 人前後で推移。(獣医)(80)は大幅減少で２年連続減少。募集単位別では、(獣医保健看護)〈第３回〉(138)が大幅増加、募集人員(前年度募集人員対比指数 83)減少も影響し、志願倍率は 9.2 倍→15.2 倍へアップ。その他の方式は、いずれも減少。

○**応用生命科学(82)**は、大幅減少で５年連続減少だが、募集人員(前年度募集人員対比指数 74)の減少で、志願倍率は逆に 3.9 倍→4.3 倍へアップ。

〈共通テスト利用方式〉

○**獣医(96)**は、やや減少で４年連続減少。学科別では、(獣医保健看護)(89)は、減少で２年連続減少だが、募集人員(前年度募集人員対比指数 88)減少で、志願倍率は 19.1 倍→19.5 倍へアップ。(獣医)(98)は、微減で４年連続減少。新設の〈共テ・第１回３科目〉を除くと(58)と減少率 40%を超える大幅減少。

○**応用生命科学(73)**は、大幅減少で２年連続減少。〈共テ併用〉で数学の負担を軽減したが、特に影響はなかった。学科別では、(動物科学)(72)は、大幅減少で２年連続減少。(食品科学)(74)は２年連続大幅減少だが、募集人員(前年度募集人員対比指数 50)減少で、志願倍率は逆に 10.1 倍→14.8 倍へとアップ。募集単位別では、(動物科学)〈第２回〉(220)が前年度 70%以上激減の反動で、倍増を超える激増。